



Newsletter

映像メディア英語教育学会 九州支部

The Association for Teaching
English through Multimedia (ATEM)
Kyushu Chapter

〒890-8565 鹿児島県 鹿児島市 高麗町 6-9

鹿児島女子短期大学 吉村 圭研究室

TEL. 099-254-9191(代)

Email:k_office@atem.org

URL: <http://atem.org/kyushu/>

編集: 福田 浩子



Contents

巻頭言 Page1 支部大会報告 Page1-3 コラム:映画ショッキング Page3 新役員紹介 Page4

ATEM 九州支部 2019

ATEM 九州支部会員の皆様

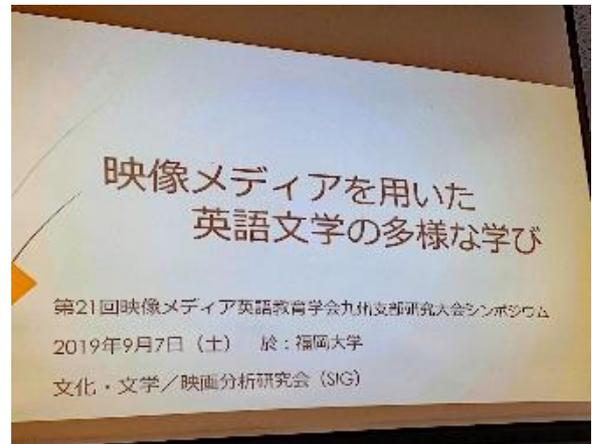
九州支部ニュースレター第 16 号がこのように完成しました。本号は 9 月に行われた九州支部大会の報告のほか、今年より新たに運営委員にご加入いただいた進藤先生と松尾先生によるご寄稿、そして映画に関するコラム《映画ショッキング》も久々に復活しました。どうぞ楽しくご覧になっていただければ幸いです。

今年は福岡大学の会場をお借りして九州支部大会を実施しました。大会数日前に台風が 2 つ発生し、どうなることかと本当にひやひやしましたが、当日は大勢の皆様にお集まりいただくことができました。大会は開会から閉会まで終始和やかなムードで、先輩方から受け継いだ九州支部の良さがすごく感じられる大会になったと思います。大会の様子は「支部大会報告」をご覧ください。また、当日は会長の横山先生、前会長の倉田先生、中部支部長の杉浦先生が駆けつけてくださり、大会の盛り上がりには花を添えてくださいました。来年もますます充実した支部大会にしたいですね!

さて、ATEM では研究・教育活動の促進を目的に SIGs (Special Interest Groups) が設立されることになり、九州支部では「文化・文学/映画分析研究会」が結成されました。早速支部大会にて英米文学と映画に関するシンポジウムを行い、10 月 19 日に行われる全国大会でも支部企画として発表予定です。支部も SIG も継続して盛り上げてゆきましょう。

映像メディア英語教育学会九州支部
支部長 吉村 圭 (鹿児島女子短期大学)

第 21 回 九州支部大会



第 21 回大会は 2019 年 9 月 7 日 (土) に福岡大学 A 棟 7 階 701 教室および 702 教室にて開催されました。今回は「映像メディアが生み出す多様な学び」(Diversity of Learning through Multimedia) とい



う大会テーマのもと、九州支部会員によるシンポジウム 1 題、研究発表 4 題に加え「支部交流

発表」として西日本支部より Michael Okamoto 先生、中部支部より寶壺貴之先生、東日本支部より小泉勇人先生、そして北海道支部より小林敏彦先生が御発表くださいました。

シンポジウムは、吉村先生が“Winnie-the-Pooh”を題材に原作と映画の「語り」の比較、松尾先生が“Little Women”を取り上げ、時代による監督の解釈や意図、映画作品内における表現の相違について、そして秋好先生が前2発表を受け、ジェンダーの観点から“The Curious and Case of Benjamin Button”の小説と映画の「語り」に関する考察を発表されました。

また、今回のテーマ「多様な学び “Diversity of Learning”」のもと、研究発表は2会場にわかれて行われ、内容も盛りだくさん、そして「全国うまいもの市？」さながらの皆様からのお土産をいただき、頭もお腹も大満足でした。

9月とはいえ台風が接近する中、残暑厳しい時期の開催でしたが、多数の先生方に御参加いただけたことで大変有意義な研究大会となりました。

詳細は以下の通りです（敬称略）

シンポジウム (Symposium)

「映像メディアを用いた英語文学の多様な学び」



吉村 圭 (鹿児島女子短期大学)



松尾 祐美子 (宮崎公立大学)



秋好 礼子 (福岡大学)

研究発表

- 1 小学校外国語早期化に対応した授業デザインとメディア教材の利用：ESP とリメディアルを融合した授業作り



生田 和也 (鹿児島女子短期大学)

- 2 Navigating Digital Information: developing 21st century skills to better evaluate online information



Michael Okamoto (Shimane University)

- 3 洋画の台詞と意味研究—「中心的概念」と多義分析—



松中 完二 (久留米工業大学)

- 4 海外医療ドラマから多角的に学ぶ -専門内容からプロフェッショナリズムまで-



南部 みゆき (宮崎大学)

5 日本の医療ドラマから学ぶ医療用語



石田 もとな (鹿児島女子短期大学)

6 『ロビン・フッド』 (1991)の英語教材化-階級・人種・宗教を巡るメディア批評トレーニング-



小泉 勇人 (東京工業大学)

7 映画を使用した多様な学びの可能性—『映画学』の講義を例として—



寶壺 貴之 (岐阜聖徳学園大学)

8 自律的持続的ニュース英語ディクテーション



小林 敏彦 (小樽商科大学)

大会終了後には、ATEM 会長の横山先生並びに各支部からご参加くださいました先生方を交えての懇親会が開かれ、和やかな雰囲気の中、博多のおいしいものをいただきながら、近況報告や映画・英語談義に花がさきました。

各支部から九州支部大会にご参加くださいました先生方には、心よりお礼申し上げます。



(文責・写真提供 吉村 圭、福田 浩子)

◆◆映画ショッキング Vol.14◆◆

～アポロ月面着陸 50 周年によせて～

1969年7月20日 アポロ11号が人類初の月面着陸に成功して今年で50周年を迎えた。あの頃には宇宙開発はもはや「夢」ではなく「必要不可欠」なものとなっている。携帯電話、インターネット地図、お天気情報、etc.

今年公開された映画「アポロ11」は当時の打ち上げの様子を忠実に描いているドキュメンタリー映画で、音声は当時の実録を使っているということだった。実際に、当時を知る筆者は小学生だったが、アポロの打ち上げの様子はテレビ中継(録画?)されていてワクワクしてテレビの前にかじりついて。それこそ子供にとっては「夢」物語だった。50年後、映画ではあるが大人になった目でみると、「月に行く」ことは当時の技術者と宇宙飛行士の血と涙と根性の結晶なんだと痛感する。今のスマホもパソコンもその努力のおこぼれなのだ。アポロ計画の女性技術者を描いた「ドリーム」(2016年公開)は、当時の女性・黒人差別のなかで、類いまれな英知と才能を持つ実在の女性技術者の奮闘ぶりを描いたものだ。彼女たちの地道な努力が月まで人類を運んだのかもしれない。また唯一月に到達できなかった「アポロ13」(1995年公開)は「死」を覚悟した中での宇宙飛行士たちの「撤退する勇氣」と「チームプレイの大切さ」と「トラブルマネジメントの素晴らしさ」が印象的だ。どの映画も実話ベース。やはり「事実は小説より希なり」なのだろう。(H.F.)

2019 年度 新役員紹介

今年度は、九州支部をますますもりたててくださるお二人の先生方を新役員に迎えました。皆様どうぞ宜しくお願いいたします。

*進藤三雄先生 (熊本県立大学)

新しく九州支部の運営委員になりました熊本県立大学の進藤と申します。自己紹介を兼ね、これまでの私と映画との関わりをお話したいと思います。私は高校時代に映画研究部に所属し、当時主流だった8ミリカメラで仲間と映画を作り、文化祭などで上映しておりました。粘土で怪獣を作り、それを少しずつ動かしながらコマ撮りの技法でアニメーション映画を作るのですが、大変根気のいる作業で、作品が出来上がったときにはそれなりに感動したものです。大学に入って間もなく、『野生の証明』という映画のエキストラのアルバイトで、アメリカ西海岸でのロケに10日間参加する機会を得ました。自衛隊役として全国から選ばれた200人の学生がM16ライフルを持って本物の戦車の後を走り、当時13歳の薬師丸ひろ子を背負った高倉健を追い詰める役でした。それまで肩まであった髪の毛を5分刈りにするのは多少抵抗がありましたが、アルバイトと初めての海外旅行が同時に実現するわけですから、大変貴重な体験でした。その後、私の学生生活は音楽活動中心となりますが、卒論は『The Deer Hunter』や『Hair』などの映画を題材に、ベトナム戦争下におけるアメリカ若者像についてまとめました。大学卒業後は高校の英語教員になり、映画研究部の顧問として、毎年生徒と一緒に8ミリの短編青春映画を制作していました。英語の授業でも、教科書だけでは物足りず、チャップリンの『Limelight』『The Karate Kid』などを教材として使用していました。現在の所属大学では『Spirited Away』『Tangled』などのアニメ映画を授業に組み入れています。このように自分の過去を振り返ってみると、常に映画と何らかの関わり合いを持ってきたことに改めて気づかされます。そしてこれからも本学会のメンバーとして映画と関わっていけることを嬉しく思います。

*松尾祐美子先生 (宮崎公立大学)

専攻はアメリカ文学で、その中でもナサニエル・ホーソーンとジョイス・キャロル・オーツをメインにしていますがアニー・プルーやエリザベス・ストラウト、ケント・ハルーフにも興味があります。小説の中で描写される、衣食住をはじめとしたもろもろの文化に大変興味があり（しばしば作品から逸脱するほど）、これまでに「庭」や「食」、「偽科学」などの視点から読んできました。映画は総合的に制作されることで、聴覚や視覚を刺激するところが小説とは違った意味で面白いと考えています。

編集後記

- ・ 今回も支部大会の写真をたくさん掲載させていただきました。楽しそうな雰囲気が伝わったらいいなと思います。
- ・ ショートコラム《映画ショッキング》を復活しました!! 皆様からのご投稿お待ちしております。
- ・ 新役員の先生のご紹介を掲載しています。どうぞ宜しくお願いいたします。

(H.F.)



九州支部事務局より

ATEM九州支部では新規会員を随時募集しています。会員登録はホームページから受け付けています。



Website: <http://atem.org/kyushu/>
E-mail: k_office@atem.org